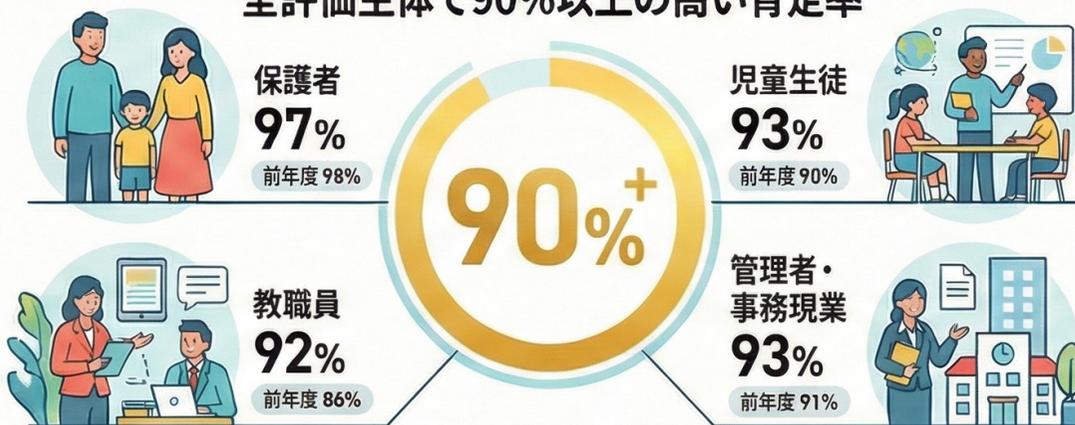


令和7年度 那覇みらい支援学校 学校評価結果：確かな信頼から、さらなる「充実期」へ

令和7年度の成果と高い信頼

全評価主体で90%以上の高い肯定率



「安全・安心」への確固たる評価

医療的ケア、給食アレルギー対応、防災体制で100%に近い評価を維持しています。



ICT活用と体験学習の飛躍的向上

児童生徒の「ICT活用」肯定率が85%から95%へ大幅に向上しました。

次年度（令和8年度）への重点課題



働き方改革の更なる推進



業務の可視化と校務DXにより、教職員のゆとりある時間を確保します。



児童・生徒会活動の活性化



障害特性に応じた役割付与とICT活用で、主体的参画を促します。



進路指導の具体化と可視化



卒業後の進路モデルを可視化し、関係機関との連携を一層強化します。

令和7年度 学校評価 前年度比較（保護者）

【評価基準】 A: (良い、やや良い) 70%以上 / B: (良い、やや良い) 69~50% / C: (良い、やや良い) 49~30%
D: (良い、やや良い) 29%以下

A: 良好である / B: 概ね良好 / C: 改善が必要 / D: 改善が急務
以下、「良い、やや良い」と回答した割合 (%)

		R7			R6
		%	増減	評価	%
1 「学校運営」 小学部 (73名) 中学部 (38名) 高等部 (44名) 計155名/276名 (56%回収)					
Q1	学校は、教育活動や教育方針及び必要な情報をわかりやすく伝えている。	97%	↓	A	99%
Q2	学校は、子どもの人権を尊重し大切にしている	99%	-	A	99%

2 「教育活動・学習指導・進路指導」					
Q3	お子さんは、喜んで学校に通学している。	93%	↓	A	97%
Q4	先生は、子どもたちをよく理解し、学習活動を行っている。	98%	↓	A	99%
Q5	先生は、ICT機器やタブレット端末等を活用した授業の実践・情報教育を行っている。	95%	↓	A	97%
Q6	学校は、児童・生徒の障害特性や課題に応じた、専門性のある指導を行っている。	96%	↓	A	97%
Q7	学校は、子どもたちの個々の将来を見据えた、望ましい進路選択のための情報を提供し、保護者と連携しながら進路指導を行っている。	93%	↓	A	95%
Q8	学校は、お子さんに関する相談について適切に対応している。	97%	-	A	97%

3 「教育相談・生徒指導」					
Q9	いじめのない学校・学級づくりに努め、いじめがあった場合でも適切な対応をして再発防止に努めている。	99%	↑	A	97%
Q10	先生は、本人・保護者の教育的ニーズや願いを取り入れた「個別的教育支援計画」を作成している。	98%	↓	A	99%

4 「健康・安全」					
Q11	学校は児童生徒の健康管理に努めるとともに、医療的ケアの協働体制（保護者・看護師・教職員）が図られている。	98%	↓	A	100%
Q12	栄養バランスのとれた豊かで安全なおいしい給食の提供がなされている。また、適切なアレルギー対応食がなされている。	99%	-	A	99%
Q13	災害などに備えて、安全・防災教育や避難訓練、安全な施設設備の整備がなされている。	97%	↓	A	99%
Q14	学校は、スクールバスの安全な運行や自力通学の指導に取り組んでいる。	98%	-	A	98%

5 「保護者連携・特色ある学校教育・学校環境づくり」					
Q15	PTA活動は、連携・周知に努めながら取り組まれている。	97%	↑	A	95%
Q16	知的障害、肢体不自由、病弱の3つの障害に対応する学校として、特色ある教育活動の推進や学校の一体感を高めることができている。	99%	-	A	99%
Q17	学校内外の活動を、お便りやホームページ、マチコミ等の活用により情報発信することができている。	99%	-	A	99%
Q18	清潔で美しい学校環境を整え、感染症予防に配慮した環境設定と対策ができている。	100%	↑	A	99%
総計		97%	↓	A	98%

学校全体の考察

令和7年度の学校評価（保護者）は、小学部73名・中学部38名・高等部44名、計155名（約280世帯）から55%回答を得た。全18項目がA評価となり、総合97%と前年度並みの極めて高い水準を維持した。学校運営、教育活動、安全管理、保護者連携において高い信頼が寄せられていることが分かる。「学校運営」では教育方針の分かりやすい発信97%、人権尊重99%と高評価で、特に人権尊重は学校の基本姿勢が浸透していることを示す。一方、情報発信は高水準ながら前年度比で微減し、改善の余地がある。「教育活動」では指導理解98%、専門性96%、相談対応97%と安定した評価を得た。進路指導93%も高いが、前年度より低下し、情報提供や個別支援の充実が課題となる。「生徒指導」ではいじめ防止99%と向上し、組織的・継続的な取組が評価された。「健康・安全」では医療的ケア体制98%、給食・アレルギー対応99%、防災97%など、生命に関わる領域で極めて高い安心感が示された。また、「保護者連携・学校環境」ではPTA97%、学校の一体感99%、情報発信99%、環境整備・感染症対策100%と、学校づくりに対する一致した信頼が確認できた。

総じて、人権尊重、専門性のある指導、安全管理、いじめ防止、保護者連携、学校環境整備の全領域で高評価が維持された。今後の重点課題は、進路指導の更なる充実、情報発信の質向上、医療的ケア・防災等の安全管理体制の精度向上であり、保護者と学校が協働し「安心・信頼される学校づくり」を推進していく。

令和7年度 児童生徒による学校評価

県立那覇みらい支援学校

記入にあたって

小学部（15名）中学部（8名）高等部（43名） 計（66）名/284名（23%）

A:良好である / B:概ね良好 / C:改善が必要 / D:改善が急務 以下、「良い、やや良い」と回答した割合（%）		R7			R6
No	項目	%	増減	評価	%
1	学校は楽しい。	92%	↓	A	93%
2	先生は、わたしたちの意見をよく聞いてくれる。	98%	↑	A	93%
3	授業は、わかりやすい。先生は、ていねいに教えてくれる。	95%	↑	A	93%
4	授業では、実験やものづくりなど体験学習がたくさんある。	94%	↑	A	83%
5	先生は、よくほめてくれる、みとめてくれる。	98%	↑	A	96%
6	先生に、学校や友だち、家族、自分のことなど相談できる。	95%	↑	A	87%
7	先生は、私や友達が困っているときに私たちを助けてくれる。	98%	↑	A	95%
8	先生は、私たちの将来のことについて、よく考えてくれる。	94%	↑	A	93%
9	みらい祭、体育祭、宿泊学習、修学旅行などの学校行事は楽しい。	97%	↑	A	88%
10	私は、児童会・生徒会に積極的に参加している。	77%	↓	A	78%
11	授業ではコンピュータ（iPad等）をよく使っている。	95%	↑	A	85%
12	先生は、命の大切さを教えてくれる。	97%	↑	A	89%
13	先生は、社会のルールについて教えてくれる。	94%	↓	A	97%
14	私は、学校で、友達や先輩、後輩にいやなことをされていない。	77%	—	—	—
15	学校で、友達や先輩、後輩が悪口やいやなことをされている場面を見たことがない。	80%	—	—	—
16	給食はおいしい。	97%	↑	A	89%
17	先生は、病気にならないためにどうすればよいか教えてくれる。	96%	↑	A	89%
18	先生は、火事や地震、津波のとき、どうすればよいか教えてくれる。	94%	↑	A	90%
	総計	93%	↑	A	90%

学校全体の考察

令和7年度の児童生徒による学校評価は284名中66名から回答を得て、全18項目がA評価、総合評価は93%と前年度より3ポイント向上した。学校生活に対する満足度は、昨年度以上に高まっている。「学習・指導」では、分かりやすい授業、体験学習、ICT活用が大きく向上し、主体的・体験的な学びの成果が確実に表れている。「教師との関係性」では、相談のしやすさや支援、承認の面で極めて高い評価が示され、生徒が教職員に強い信頼と安心感を抱いていることがうかがえる。「学校行事」も大きく向上し、学校生活の充実に寄与している。一方、「児童会・生徒会活動」への参加は依然として低めであり、主体的な参画を促す取組が課題である。また、「学校は楽しい」「社会のルール」では高水準を維持しつつも、わずかな低下が見られる。「命・健康・防災」では、命の大切さ、給食、病気予防、防災指導のすべてが大きく向上し、安全教育の定着が確認された。

今後は、①主体的な活動機会の充実、②日常の安心感・楽しさの質向上、③いじめ防止・人権尊重の継続的な取組を重点に、安心して成長できる学校づくりを推進していく。

令和7年度 学校評価 前年度比較 (学校評議員)

学校評議員 5名

			良い	やや良い	評価
1 「学校運営」		R7	100%	0%	A
Q1	教育活動や教育方針及び必要な情報をわかりやすく伝えている。	R6	100%	0%	
<ご意見> ①ホームページを通して、子供たちの様子がよくわかり、学校案内、パンフレットなどにも教育方針がわかりやすく示されている。 ②進路情報の発信の工夫。					
			良い	やや良い	評価
2 「教育活動・学習指導・進路指導」		R7	60%	40%	A
Q2	児童・生徒の障害特性や課題に応じた、専門性のある指導に取り組む、適切な進路指導を行っている。	R6	60%	40%	
<ご意見> ①ホームページ等から、普段の教育活動や学習の様子など生徒の様子がよくわかりいいと思います。 ②もう少し積極的な進路指導と具体的な対策が必要だと思います。 ③部活動があったらいいの…という声を聞きます。もし、今後可能であれば、検討してもらえたらと思います。					
			良い	やや良い	評価
3 「教育相談・生徒指導」		R7	60%	40%	A
Q3	児童・生徒に関する相談について適切に対応している。	R6	100%	0%	
<ご意見> ①ホームページを通して、外部に対するセンター的機能の役割を非常にわかりやすく丁寧に示している。本校が実際に現在行っている外部支援についても、具体的に今後は発信していけるとより良いと思います。					
			良い	やや良い	評価
4 「健康・安全」		R7	100%	0%	A
Q4	健康・安全教育に適切に取り組んでいる。	R6	60%	40%	
<ご意見> ①本校において非常に配慮している部分だと感じられます。日々児童生徒の健康管理や安全管理は大変だと思いますが、事前の準備、工夫等がされているものと感じます。					

			良い	やや良い	評価
5「保護者連携・特色ある学校教育」		R7	60%	40%	A
Q5	保護者や地域と連携し、円滑な学校運営に取り組んでいる。	R6	80%	20%	
<ご意見> ①特色ある活動がされていると感じます。					
			良い	やや良い	評価
6「組織体制」		R7	100%	0%	A
Q6	校長のリーダーシップのもと学校が適切に運営されている。	R6	80%	20%	
<ご意見> ①校長先生の学校教育への思いは、強く感じられ、大きな学校ではあるが校長のリーダーシップのもと適切な学校運営がなされていると感じます。 ②教職員の負担軽減の更なる取組に努めていただきたい。					
総 計		R7	100%		A

その他、ご要望等がありましたら、下記にご記入されて下さい。

<ご意見> ①参加しております評議員会での、各学部ご担当先生方の取り組み報告をお聞きする限りですが、非常に頑張られているのが良く分かります。 ②専門性を要する、職場環境だと思います。 ③学校長を中心に『学校における働き方改革』を更に推し進めていただくことを望みます。 ④ホームページが大変よく整備されていて、必要な情報がすぐ閲覧できる状況にあり、とても使いやすく、工夫されていると思います。また、発信されている情報も新しい情報が随時更新されており、とても素晴らしいと思います。 ⑤いつも連携させて頂き助かっています。今後ともよろしくお願いいたします。 ⑥たくさんの取組、素晴らしいと思います。					
--	--	--	--	--	--

令和7年度 学校評価 前年度比較（教職員）

【評価基準】 A:（良い、やや良い）70%以上/B:（良い、やや良い）69～50%/C:（良い、やや良い）49～30%
D:（良い、やや良い）29%以下

A:良好である / B:概ね良好 / C:改善が必要 / D:改善が急務
以下、「良い、やや良い」と回答した割合（%）

		R7			R6
		%	増減	評価	%
1 「教育課程の充実」		150名/150名（100%回収）			
Q 1	児童・生徒の障害の実態を踏まえて、学習指導要領に基づいた適切な目標や手だてを設定し、実践・評価することができている。	93%	↑	A	87%
Q 2	児童・生徒の将来を見据えた、キャリア教育と自己肯定感を高める教育を進めることができている。	93%	↑	A	90%
2 「授業力の向上」					
Q 3	児童・生徒の障害特性や課題に応じた、専門性のある指導が行われている。	92%	↑	A	89%
Q 4	教職員の適切な言葉遣いや読書活動を通して、児童・生徒の言語環境は高められている。	92%	↑	A	86%
Q 5	ICT機器やタブレット端末等を活用した授業の実践と、指導技術の向上ができている。	89%	↑	A	88%
Q 6	日々の授業について、指導環境の整備や教材の工夫や、分かりやすい授業の充実が図られている。	91%	↑	A	90%
3 「生活指導体制の構築」					
Q 7	普段から「危険予知」を心掛けてヒヤリハットの未然防止を図るとともに、障害特性を踏まえた安全な防災教育や避難訓練、安全な施設設備の整備を意識・実践することができている。	96%	↑	A	95%
Q 8	スクールバスの安全発着体制や自力通学の指導体制構築等、通学環境が整備できている。	97%	—	A	97%
Q 9	いじめのない学校・学級づくりに努め、いじめがあった場合でも適切な対応をして再発防止に努めている。	98%	↓	A	99%
4 「保健給食体制の構築」					
Q 10	安全・安心な医療的ケア制度の啓発と医療的ケア体制の実現がなされている。	99%	↑	A	98%
Q 11	摂食機能を高める、安全でおいしい給食の提供がなされている。また、適切なアレルギー対応食がなされている。	100%	↑	A	99%
5 「専門性ある人材の活用」					
Q 12	外部専門家や関係機関との連携のもと授業改善、教材充実が図られている。	90%	↑	A	84%
Q 13	医療的ケアの実施に関して、看護師と教職員の協働体制が図られている。	100%	↑	A	99%
Q 14	地域の学校、関係機関へ適切な支援が行えている。また、連携が図られている。	93%	—	A	93%
6 「学校組織の確立と教職員の行動指針」					
Q 15	子供の人権を尊重し、体罰や暴言等のない人権尊重に基づく指導が実践できている。	96%	—	A	96%
Q 16	教職員の接遇マナー（服装、案内、電話、応答、言葉遣い）は、本校教職員として適切である。	97%	↑	A	96%
Q 17	組織的・効率的な業務改善、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進やライフ・ワーク・バランスの意識向上ができている。	86%	↑	A	67%
7 「特色ある学校教育・学校環境の創出」					
Q 18	学校内外の活動をお便りやホームページ、マチコミ、楽メ等の活用により情報発信することができている。	95%	—	A	95%
Q 19	知的障害、肢体不自由、病弱の3つの障害に対応する学校として、特色ある教育活動の推進や学校の一体感を高めることができている。	82%	↑	A	73%
Q 20	PTA活動について、教職員・保護者間で連携しながら取り組んでいる。	94%	↑	A	93%
Q 21	清潔で美しい学校環境を整え、感染症予防に配慮した環境設定と対策ができている。	97%	↑	A	95%
8 「学校における働き方改革」					
Q 22	同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができている。	93%	↑	A	78%
Q 23	個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができている。	72%	↑	A	46%
Q 24	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができている。	97%	↑	A	96%
Q 25	より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	82%	↑	A	78%
Q 26	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができている。	83%	↑	A	75%
総計		92%	↑	A	88%

学校全体の考察

令和7年度の学校評価（職員）は150名中150名から100%回答を得て、全26項目がA評価、総合評価は92%と前年度より4ポイント向上した。教育活動、安全管理、医療的ケア、組織運営、働き方改革の各分野において、学校運営の安定と向上が確認された。特に、給食・アレルギー対応、医療的ケア体制は100%評価を維持し、看護師・教職員・関係機関の連携や安全管理体制が本校の大きな強みとなっている。また、業務改善・DX 推進は67%から86%、人間関係は78%から93%へと大きく改善した。働き方改革においては、「ゆとりある時間の確保」が46%から72%へ上昇し、校務分掌の見直しやICT活用の成果が表れている。一方で、業務負担の偏りや医療的ケア対応等、特別支援学校特有の課題は依然として残っており、継続的な業務改善が必要である。

総じて、本校は基盤整備期から安定と発展の充実期へ移行しつつある。今後は、①個に応じた教育の充実、②安全・医療体制の維持向上、③教職員がやりがいと余裕をもって働ける学校づくりを柱として、学校経営の質をさらに高めていく。

令和7年度 学校評価 前年度比較（管理者・事務現業等）

【評価基準】 A:（良い、やや良い）70%以上／B:（良い、やや良い）69～50%／C:（良い、やや良い）49～30%
D:（良い、やや良い）29%以下

A:良好である / B:概ね良好 / C:改善が必要 / D:改善が急務
以下、「良い、やや良い」と回答した割合（%）

		R7			R6
		%	増減	評価	%
1 「学校運営」		管理者（4名）、事務現業（24名）			計28名/28名（100%回収）
Q1	校務の推進にあたって、情報の共有化や学部主事・分掌主任、教務主任、管理者等と連携し、円滑に進めている。	96%	↑	A	86%
Q2	個人情報の保護や情報セキュリティは適正に実行している。	100%	—	A	100%
Q3	家庭との連携においては、文書の受け渡し、電話対応、保護者対応などを適切に行っている。	96%	↑	A	93%
Q4	図書室は、児童生徒が利用しやすいように、本の紹介や書架の整理、掲示等が工夫されている。	100%	↑	A	96%
Q5	児童生徒の健康教育や保健指導、体調管理等に関して、保護者や担任、関係職員と連携して取り組んでいる。	93%	—	A	93%
Q6	文書・報告・研究会等の情報について、速やかに周知・伝達している。	100%	↑	A	90%
Q7	提出文書などの作成・整理・保管等について、適切な処理を行っている。	100%	↑	A	96%
Q8	業務上の専門性（知識・技能）の向上に取り組んでいる。	96%	↓	A	100%
Q9	予算の執行計画、手続きなど関係部署と連携し、適切に行っている。	92%	↓	A	96%
2 「健康・安全」					
Q10	児童生徒の給食の指導に関して、保護者や担任、関係職員と連携して取り組んでいる。	89%	↓	A	96%
Q11	安全・安心な医療的ケア制度の啓発と医療的ケア体制の実現がなされている。	89%	—	A	89%
Q12	医療的ケアの実施に関して、看護師と教職員の協働体制は図られている。	93%	—	A	93%
Q13	スクールバスの利用について、バス部・保護者・担任等で連携が図られている。	100%	↑	A	97%
Q14	スクールバスの安全に留意した運行に向け、担任・保護者と運転手・介助員との連携が図られている。	100%	↑	A	93%
Q15	学校内の危険箇所を把握して、安全業務に努めている。	97%	↑	A	89%
Q16	校内の防災施設設備等の把握や、緊急時・災害時の対応について、児童生徒の実態に即した訓練・対応を行っている。	100%	↑	A	89%
Q17	教職員による児童生徒の人権や人格を否定するなどの不適切な指導について、その実態把握に努め、早期発見・早期対応を行っている。	100%	—	—	—
3 「学校における働き方改革」					
Q18	「働き方改革」推進にあたり、組織及び個人としての業務等の精選や負担軽減等について、工夫・改善に取り組んでいる。	78%	—	A	78%
Q19	同僚・管理職との良好な人間関係の構築ができています。	92%	↓	A	96%
Q20	個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保ができています。	74%	↑	A	68%
Q21	一人一人の児童生徒との信頼関係を深めることができています。	89%	↓	A	93%
Q22	より専門性を発揮するための研修や教材研究等が充実している。	85%	↓	A	89%
Q23	心身の健康の確保と安全・快適な職場環境の形成ができています。	85%	—	A	85%
総 計		93%	↑	A	91%

学校全体の考察

令和7年度の学校評価（管理者・事務現業等）は28名中28名から100%回答を得て、全23項目がA評価、総合評価は93%と前年度を上回った。管理・事務・現業部門における業務の質と連携体制が着実に向上していることが示された。「学校運営」では、情報共有、文書管理、連絡調整体制が大きく改善し、円滑な学校運営を支える中核として高く評価された。一方、専門性向上や予算執行における連携は高水準を維持しつつも、研修機会の充実や連携精度の更なる向上が課題である。「健康・安全」では、スクールバスの安全運行や防災・危機管理体制が大幅に向上し、組織的な安全体制の強化が確認された。給食や医療的ケアに関する連携は高水準を維持しているが、業務の属人化防止が引き続き課題である。「働き方改革」では、裁量時間の確保に改善が見られた一方、業務の精選・負担軽減や職場環境改善は依然として課題が残る。

総じて、管理・事務・現業体制は安定と充実が進んでおり、今後は、業務量の可視化、役割整理、ICT活用、突発業務への対応体制の平準化を進め、持続可能な学校運営体制の構築を目指していく。

令和7年度 那覇みらい支援学校『学校評価』【総括】

1 報告の趣旨

本報告は、令和7年度に実施した学校評価について、「教職員」「保護者」「管理者・事務現業」「児童生徒」の4者による多面的な評価結果を基に、本校の教育活動及び学校運営の成果と課題を総合的に検証し、次年度に向けた改善の方向性を明らかにするものである。

2 令和7年度 学校評価の総括

令和7年度の学校評価においては、4者すべての評価主体において、総合評価が9割を超える高水準の肯定的評価が示された。

- (1) 児童生徒評価 93%
- (2) 保護者評価 97%
- (3) 教職員評価 92%
- (4) 管理者・事務現業評価 93%

いずれも極めて高い評価結果となった。これらの結果から、本校が開校以来大切にしてきた「一人一人を大切にできる教育」「安全・安心を最優先とする教育環境」「専門性に基づく支援」「保護者とともに歩む学校づくり」が、学校内外において確かな信頼として定着していることが確認できた。また、授業の分かりやすさ、体験的な学習、ICTの活用、医療的ケア、給食、防災、通学安全、いじめ防止、保護者連携、学校組織運営の円滑化など、学校運営の中核となるすべての領域において、安定した高評価が継続して示されたことは、本校の教育活動が組織として機能していることの成果である。

3 本年度の主な成果

今年度、特に顕著であった成果として、以下の点が挙げられる。

- (1) 体験的な学習活動やICTを活用した授業改善の定着
- (2) 医療的ケア、給食、防災、通学安全における安全管理体制の一層の安定
- (3) 児童生徒と教職員との信頼関係の更なる深化
- (4) 保護者との情報共有・連携体制及びPTA活動の定着
- (5) 管理・事務・現業部門における情報共有、文書管理、防災体制の大幅な改善
- (6) 働き方改革における「個人の裁量時間」の一定の改善

これらの成果は、教職員一人一人の実践力と、保護者・地域・関係機関との協働によって築かれたものであると考える。

4 令和8年度に向けた重点課題と改善策

本校は、現状に満足することなく、前年度に引き続き全体と比べて相対的に低い評価にも着目して、次年度に向けて以下の3点を**最重点課題**として位置付け、組織的な改善に取り組む。

【重点課題①】

『働き方改革のさらなる推進（業務の質と量の最適化）』

(1) 課題

教職員評価及び管理・事務現業評価において、「業務の精選・負担軽減」「心身の健康の確保」は、依然として改善途上にあることが示されている。特別支援学校特有の医療的対応や突発的な緊急対応により、構造的に業務負担が集中しやすい現状がある。

(2) 改善策

- ①職種別・分掌別の業務内容と所要時間の可視化
- ②教員個々のタイムマネジメントの意識と工夫
- ③ICT・校務DXの更なる推進
- ④緊急対応業務におけるチーム対応の徹底
- ⑤管理職主導による「定時退勤の推奨」と「業務持ち帰り防止の提言」

【重点課題②】

『児童生徒の主体性及び参画意識の一層の育成』

(1) 課題

児童生徒評価において、「児童会・生徒会活動への参加」は他項目と比較して相対的に低位で推移しており、主体的な参画意識の育成に課題が残る。

(2) 改善策

- ①発達段階・障害特性に応じた役割付与の工夫
- ②成功体験を積み重ねるスモールステップ型の参画体制構築
- ③ICTや掲示を活用した役割の可視化
- ④学部横断型の係活動の見直しや行事参画の再編

【重点課題③】

『進路指導・将来支援の充実と保護者連携の深化』

(1) 課題

進路指導は高評価を得ている一方で、「将来の見通しの分かりやすさ」「情報の具体性」に関するさらなる充実が求められている。

(2) 改善策

- ①卒業後の進路モデル（就労・生活・福祉）の可視化
- ②関係機関・企業・福祉事業所との連携強化
- ③保護者向け進路説明会・個別相談体制の充実
- ④高等部段階における実習及び体験活動の拡充

5 おわりに（次年度への展望）

令和7年度の学校評価の結果から、本校は、「教育の質」・「学校運営」・「安全管理」・「組織体制」において、極めて安定した学校経営が実現していることが確認できた。これは、教職員、保護者、関係機関、地域、そして何より児童生徒一人一人の努力の積み重ねによる成果である。

令和8年度に向けては、本報告に示した重点課題を学校経営の中核に据え、「子どもを中心に、学校が一つになって前へ進む学校づくり」を更に推進していく。

令和7年度「学校評価」4者アンケート考察

1. 保護者

本校における令和7年度学校評価（保護者）については、小学部73名、中学部38名、高等部44名、計155名から回答を得た。「良い」「やや良い」の合計が70%以上をA評価とする基準に基づき、全19項目すべてがA評価となり、総合評価は97%と、前年度（令和6年度：98%）と同様に極めて高い水準を維持する結果となった。これは、学校運営、教育活動、安全管理、保護者連携に関する取組が、保護者から継続して高い信頼と評価を受けていることを示すものである。

(1)「学校運営」に関する考察

Q1「教育方針や必要な情報の分かりやすい発信」97%、

Q2「子どもの人権の尊重」99%

と、極めて高い評価を維持している。特に「人権の尊重」については前年度と同水準であり、児童生徒一人一人の人格と尊厳を大切に学校の基本姿勢が、保護者に十分に浸透していることがうかがえる。一方、情報発信は依然高水準ではあるものの、前年度比ではわずかな低下が見られることから、今後も保護者視点に立った分かりやすい情報提供の在り方について、引き続き点検・改善を図っていく必要がある。

(2)「教育活動・学習指導・進路指導」に関する考察

Q4「教師の理解と指導」98%、

Q6「障害特性に応じた専門性のある指導」96%、

Q8「相談対応」97%

と、非常に高い評価が維持されている。これは、教職員が児童生徒の実態を的確に把握し、専門性に基づいた指導と丁寧な相談対応を継続している成果であると考えられる。一方で、Q7「進路指導」93%は高水準を維持しているものの、前年度（95%）から低下しており、卒業後の進路に関する情報提供の時期や内容、個別の保護者ニーズへの対応について、より一層の充実が求められる。

「教育相談・生徒指導」においては、Q9「いじめ防止」99%（前年度97%）と向上しており、いじめの未然防止・早期対応・組織的対応が、保護者からより一層評価される結果となった。今後も「学校いじめ防止基本方針」に基づき、継続的な取組を徹底するとともに、児童生徒が安心して過ごせる学校風土の維持向上に組織一体となって取り組んでいく必要がある。

(3)「健康・安全」に関する考察

Q11「医療的ケアの協働体制」98%、

Q12「給食・アレルギー対応」99%、

Q13「防災・安全教育」97%、

Q14「通学の安全」98%

と、生命の安全に関わる全ての分野において、引き続き極めて高い評価が示された。これらは、看護師・教職員・保護者・関係機関の連携体制が確実に機能していることの表れであり、本校の教育活動を支える基盤が安定していることを示している。

(4)「保護者連携・特色ある学校教育・学校環境づくり」に関する考察

- Q15「PTA 活動」97%、
Q16「特色ある教育活動と学校の一体感」99%、
Q17「情報発信」99%、
Q18「学校環境・感染症対策」100%

と、前年同様もしくはそれを上回る高評価を得ている。特に、学校の一体感や環境整備、感染症対策に関する評価の高さからは、保護者と学校が協働して学校づくりを進めている実感が、確実に共有されていることがうかがえる。

(5) 総括

令和7年度の保護者アンケート結果は、「人権尊重」「専門性の高い学習指導」「医療的ケアを含む安全体制」「いじめ防止」「保護者連携」「学校環境整備」等、本校の教育活動の根幹に関わるすべての領域において、極めて高い水準の評価が維持されていることを明確に示している。これは、教職員一人一人の継続的な実践と、保護者との信頼関係の積み重ねによる成果であるといえる。

今後は、これまでに築いてきた安定した基盤を維持しつつ、

- (1) 進路指導における情報提供と個別支援のさらなる充実
- (2) 保護者への情報発信の質の向上
- (3) 医療的ケアや防災体制を含む安全管理の一層の精度向上

これらを重点課題として、保護者と学校が一体となった「安心・信頼される学校づくり」を、より確実なものとして推進していく。

2. 教職員

本校における令和7年度学校評価（職員）については、小学部・中学部・高等部合わせて146名から回答を得た。「良い」「やや良い」の合計が70%以上をA評価とする基準に基づき、全26項目すべてがA評価となり、総合評価は92%と、前年度（令和6年度：88%）を4ポイント上回る結果となった。

(1) 「学校運営」に関する考察

学校運営全般において、教育活動・生活指導・医療的ケア・安全管理・組織運営・働き方改革の各分野が、総合的に安定・向上してきていることを示すものである。特に、

- Q8「スクールバス等の通学体制」：97%（前年度同水準）
Q10「医療的ケア体制の整備」：99%（前年度98%）
Q11「給食の提供・適切なアレルギー対応」：100%（前年度99%）
Q13「医療的ケアの実施・看護師との協働体制」：100%（前年度99%）

と、児童生徒の生命と健康を守る生活基盤および医療的ケア体制に関する項目が極めて高い評価を維持している。これは、看護師・教職員・関係機関との連携体制の定着、危機管理マニュアルの整備、日常的な安全確認の積み重ねによる成果であり、本校の学校運営の根幹を支える重要な強みであるといえる。

(2) 「学校組織の確立」、「働き方改革」に関する考察

令和6年度に課題として位置付けていた「学校組織の確立」「働き方改革」に関する項目についても、顕著な改善が見られた。とりわけ、

Q17「業務改善・DXの推進等」：67% → 86%

Q22「同僚・管理職との良好な人間関係」：78% → 93%

と、組織的な業務改善の取組や、分掌・学部間の情報共有の充実、会議の効率化、校務のICT化の推進等が、教職員の実感値として数値に表れている点は大きな成果である。また、令和6年度に最も改善を要する課題とされた

Q23「個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保」については、46%から72%へと大幅に改善した。

これは、校務分掌の見直し、年間行事の精選、文書業務の簡素化、ICT活用による事務作業の効率化等の取組が一定の成果を上げた結果であり、働き方改革の方向性が教職員に共有されつつあることを示している。一方で、Q23の数値は改善したものの、他項目と比較すると依然として相対的に低い水準にあり、

- (1) 校務と授業準備・児童生徒対応の両立
- (2) 学部・分掌ごとの業務負担の偏り
- (3) 医療的ケアや突発対応等に伴う業務の増加

など、特別支援学校特有の構造的な業務負担の課題は引き続き存在している。今後も業務内容および所要時間の可視化を進め、教員個々のタイムマネジメントの意識と工夫などの視点で抜本的な業務改善に継続して取り組む必要がある。

(3) 総括

令和7年度の学校評価は、「教育の質」「安全・医療体制」「信頼関係」「学校組織」「働き方改革」の各分野において、前年度を上回る成果が確認され、本校が開校からの基盤整備期を経て、安定性と発展性を兼ね備えた充実期へと移行していることを示す結果であった。今後も、

- (1) 児童生徒一人一人の実態に応じた教育内容の充実
- (2) 医療的ケアを含む安心・安全な教育環境の維持・向上
- (3) 教職員がやりがいと余裕をもって専門性を発揮できる学校づくり

これらを柱として、組織一体となった学校経営の質的向上に取り組んでいく。

3. 管理者・事務現業等

本校における令和7年度学校評価（管理者・事務現業等）については、事務現業等28名から回答を得た。「良い」「やや良い」の合計が70%以上をA評価とする基準に基づき、全23項目すべてがA評価となり、総合評価は93%と、前年度（令和6年度：91%）を上回る結果となった。これは、学校運営を支える管理・事務・現業部門において、業務の質と連携体制が全体として着実に向上していることを示している。

(1) 「学校運営」に関する考察

「学校運営」に関する項目では、

- Q1「情報共有と管理職等との連携」：96%（R6：86%）
- Q3「家庭との連携（文書・電話・保護者対応）」：96%（R6：93%）
- Q4「図書室の環境整備」：100%（R6：96%）
- Q6「文書・報告等の周知・伝達」：100%（R6：90%）
- Q7「提出文書の作成・整理・保管」：100%（R6：96%）

と、いずれも前年度を上回る極めて高い評価が示された。特に、情報共有、文書管理、連絡調整体制が大きく改善しており、管理・事務部門が学校運営の中核として円滑に機能していることが数値上も明確となった。また、Q2「個人情報保護・情報セキュリティ」については100%で前年度同水準を維持しており、情報管理体制の適正な運用が引き続き徹底されている。一方で、

Q8「業務上の専門性向上」：96%（R6：100%）

Q9「予算執行における関係部署との連携」：92%（R6：96%）

は、高水準を維持しているものの、わずかな低下が見られる。今後は、事務職・現業職それぞれの専門性向上に向けた研修機会の確保や、予算執行における部局間連携の一層の精度向上を図る必要がある。

(2)「健康・安全」分野における考察

「健康・安全」に関する項目では、前年度からの改善が特に顕著である。

Q13「スクールバス連携」：100%（R6：97%）

Q14「スクールバス安全運行」：100%（R6：93%）

Q15「校内危険箇所の把握」：97%（R6：89%）

Q16「防災・緊急時対応」：100%（R6：89%）

と、スクールバスの安全管理、防災・危機対応体制が大幅に強化されたことが読み取れる。これは、バス部、担任、保護者、介助員等との連絡体制の再整理や、訓練内容の見直し、危険箇所点検の定期化等の取組が成果として表れたものであり、児童生徒の生命の安全を支える体制が組織的に強化された重要な成果である。一方、

Q10「給食指導における連携」：89%（R6：96%）

Q11「医療的ケア体制」：89%（R6と同水準）

Q12「看護師と教職員の協働」：93%（R6と同水準）

については、高水準を維持しているものの、給食や医療的ケア分野は日常的な負担が大きい業務であることから、業務の属人化を防ぐ体制づくりや役割分担の明確化が引き続き課題である。

(3)「学校における働き方改革」における考察

「働き方改革」では、

Q20「個人の裁量（ゆとり）ある時間の確保」：74%（R6：68%）【改善】と、前年度に比べて一定の改善が見られた。校務分担の見直し、会議の効率化、文書業務の整理等の取組が一定の効果を上げているものと考えられる。一方で、

Q18「業務の精選・負担軽減」：78%（R6と同水準）

Q23「心身の健康と快適な職場環境」：85%（R6と同水準）

は大きな改善にまでは至っていない。管理・事務・現業業務は、年度途中の突発的業務や医療的対応、防災対応等が重なりやすい特性を有しており、依然として構造的な業務過多が存在していると考えられる。今後は、職種ごとの業務内容・所要時間の可視化を進め、教員個々のタイムマネジメントの意識と工夫などの視点による業務再編と、組織的な負担軽減策を継続して検討する必要がある。

(4) 総括（令和7年度の管理・事務・現業体制の評価）

令和7年度の管理者・事務現業等に係る学校評価は、「学校運営」「健康・安全」「働き方改革」

のすべての領域において前年度を上回る、又は高水準を維持する結果となり、学校運営を支える基盤が一層安定・充実してきていることを示す結果であった。特に、

- ①情報共有・文書管理・連絡調整体制の大幅な向上
- ②スクールバス及び防災・危機管理体制の強化
- ③個人の裁量時間の一定の改善

といった点は、次年度以降の学校経営を支える重要な成果として位置付けられる。一方で、業務の精選・負担軽減や心身の健康確保については、引き続き組織的に取り組むべき重点課題であり、今後も

- ①業務量の定量的把握
- ②職種別の役割整理
- ③ICT 活用による事務効率化
- ④突発業務への対応体制の平準化

これらを進めながら、管理・事務・現業部門が持続可能な形で教育活動を支え続けられる体制構築を図っていく。

4. 児童生徒

本校における令和7年度児童生徒による学校評価については、小学部15名、中学部8名、高等部43名、計66名から回答を得た。「良い」「やや良い」の合計が70%以上をA評価とする基準に基づき、全18項目すべてがA評価となり、総合評価は93%と、前年度（令和6年度：90%）を3ポイント上回る結果となった。このことから、学校生活に対する児童生徒の満足度は、前年度と比較してさらに向上していると評価できる。

(1)「学習・指導」に関する考察

Q3「授業は分かりやすい」：95%（R6：93%）

Q4「体験学習がたくさんある」：94%（R6：83%）

Q11「ICT（iPad等）の活用」：95%（R6：85%）

と大きく数値が伸びており、主体的・体験的な学習活動やICT活用を取り入れた授業改善の取組が、児童生徒自身の実感として確実に成果を上げていることが読み取れる。

(2)「教師との関係性・支援」に関する考察

Q2「意見をよく聞いてくれる」：98%（R6：93%）

Q5「ほめてくれる・認めてくれる」：98%（R6：96%）

Q6「相談できる」：95%（R6：87%）

Q7「困ったとき助けてくれる」：98%（R6：95%）

Q8「将来のことを考えてくれる」：94%（R6：93%）

と軒並み向上しており、児童生徒が教職員に対して強い信頼感と安心感を抱いていることが、極めて高い数値として明確に示された。これは、日常的な声かけ、相談体制の充実、個別支援を重視した指導の積み重ねによる成果であると考えられる。

(3)「学校行事」等に関する考察

Q9「学校行事は楽しい」：97%（R6：88%）

と大幅に向上しており、行事が児童生徒の学校生活の充実感や帰属意識の向上に大きく寄与していることがうかがえる。一方で、

Q10「児童会・生徒会への参加」：77%（R6：78%）

は、他項目と比較すると相対的に低く、前年度とほぼ横ばいである。今後は、役割の見える化や成功体験の積み重ねを通して、より多くの児童生徒が主体的に参画できる仕組みづくりが課題である。また、

Q1「学校は楽しい」：92%（R6：93%）

Q13「社会のルール」：94%（R6：97%）

は高水準を維持しているものの、わずかに低下が見られることから、日常の学校生活における安心感・楽しさの質を、引き続き丁寧に点検していく必要がある。

(4)「生活・安全面」に関する考察

Q12「命の大切さ」：97%（R6：89%）

Q16「給食はおいしい」：97%（R6：89%）

Q17「病気予防」：96%（R6：89%）

Q18「防災指導」：94%（R6：90%）

といずれも大きく向上しており、「命・健康・防災」に関する教育が、児童生徒の実感として確実に定着してきていることが明らかとなった。

(5) 総括

令和7年度の児童生徒アンケート結果からは、「学習の分かりやすさ」「体験的な学び」「ICTの活用」「教職員との信頼関係」「相談体制」「学校行事」「命・健康・防災教育」など、学校生活の中核となる領域すべてにおいて、前年度を上回る評価が示された。これは、これまで進めてきた授業改善、個別支援の充実、学校行事の工夫、安全教育の再構築等の取組が、「児童生徒自身の満足と成長の実感」として結実していることを示す結果である。

今後は、これらの成果を確実に維持・発展させるとともに、

- (1) 児童会・生徒会活動など主体的な参画の場の充実
- (2) 日常の学校生活における「楽しさ」と「安心感」の質の向上
- (3) いじめ防止・人権尊重に係る継続的な実態把握

を重点課題として、児童生徒一人一人が安心して学び、主体的に成長できる学校づくりを、引き続き組織的に推進していく。